

神社は観光地？

旗を持ったツアーガイドに連れられた団体客、立ち止まって写真撮影する人々、人ごみの先に神社はあった。そこにいる人たちの意識に「宗教」「信仰」といった言葉はどれだけあるのだろうか。

今年、2013年は出雲大社の約60年に一度の遷宮の年だ。遷宮とは定期的な神社の修理や建て替えを言う。単なる修理という意味合いだけではない。神社建築においての特殊な技術を持った職人の技術の伝承の役目や、年月を経て弱くなった神様の力を、社殿を綺麗にすることで回復させるという意義を持っている。

遷宮に伴い、島根県や出雲市では地域振興を狙って国内外に対して観光のPRを行っている。その一環として、島根県は出雲大社や遷宮について外国人の視点から英語で説明したサイトも開設している。出雲大社に訪れる参拝客は格段に増えており、旅行会社では多くのツアーが企画され人気を集めている。また、出雲大社は「縁結び」の神社として有名だ。由来については諸説あるが、一説には毎年10月に全国の神々が出雲に集まり人々の縁組みの相談をするという信仰によるとされ、江戸時代中期には広まっていた。この効果を求めて訪れる参拝客も多く、地元では観光協会や空港に「縁結び」の名を冠し呼び込みを図っている。

「神社にお参りするきっかけは観光目的であってもいい。参拝客がたくさんいらっしやるのが地元の発展につながっていけばいい」

出雲大社に訪れる人々によって地域経済が潤うことは喜ばしいことである。一方で、露出の多い服装での参拝や境内で騒ぐなど、信仰の場にはふさわしくない振る舞いをする参拝客も残念ながら見受けられる。

出雲大社の関係者はこう言う。

「神様のお蔭のなかで自分が生かされているという感謝の気持ちをもってほしい。困ったときだけ神様にお願いするのではなく、本来の信仰のあり方をお参りされる皆様に広げていきたい」

山崎かれん